

臨床・教育ボランティア

オーガナイザー

教育研究開発センター 教授 村田顕也

I. 授業の目的

臨床や教育のボランティアを介して、コミュニケーションや患者の方々の気持ちを理解し、ケアマインドを養う。

II. 到達目標

1. 小児とコミュニケーションがとれる。
2. 高齢者とコミュニケーションがとれる。
3. 病める人の心に共感できる。
4. エスコートができる。
5. 教育のためのボランティアができる。

III. 教育内容

1. 緩和ケア病棟でのボランティア
2. 観光医学でのボランティア
3. オープンキャンパスでのボランティア
4. 共用試験 OSCE での模擬患者
5. 小児科病棟でのボランティア
6. 救急蘇生 (BLS, ACLS) 実習での介助ボランティア
7. 病院内エスコート
8. その他、大学が認めたもの

IV. 教育方法

1. ボランティアを行うものは事前に学生課に申請書を提出し、登録する。
2. ボランティアの期間は、カリキュラム上のボランティア期間および講義・実習の時間外および休校日とする。

V. 評価の方法

参加の多い学生については、顕彰する機会を設ける。